

たなべさくお

伊達本線			
伊達紋別～豊浦	18.8km	昭30・9・5	開業
山下町～網代町	0.8	昭32・3・1	
伊達紋別～製糖工場前～山下町	3.9	昭36・4・20	
有珠～有珠展望台	8.0	昭37・9・1	
有珠～善光寺入口～北工前	3.3	昭38・3・1	
壮瞥線			
伊達紋別～壮瞥	16.4	昭30・9・1	
末永町～伊達高校前	0.3	昭38・3・1	
西関内～喜門別川	0.4	昭38・3・1	
黄金線			
網代町～稀府	8.1	昭30・9・5	
稀府～黄金	4.9	昭32・3・1	
喜門別線			
網代町～喜門別	9.8	昭32・3・1	
伊達高校前～伊達中学校前	0.8	昭36・4・20	
伊達高校前～東校別学校前	4.0	昭36・4・20	

本路線は昭和38・3・1羊蹄線から分離した。

2 営業範囲  
 旅客および手荷物の取扱いはしている。  
 3 使命  
 室蘭本線の補完および伊達町を中心としたこの地方の産業文化の発展助長を使命としている。

4 特長  
 室蘭本線および胆振線と並行した国道上を走行しており、すぐ後ろに国立公園洞爺湖を控えている。(佐野 実)

たなべさくお 田辺朔郎 文久1・11・1 幕臣田辺孫次郎の長男として江戸に生まれる。明治10年虎ノ門の工部大学校に入学し、同16年土木工学科を最優成績で卒業した。在学中から琵琶湖の水を京都に引く大工事の主任技術者に推され、琵琶湖疏水路を踏査し、実測の準備をし、[琵琶湖疏水工事の計画]という卒業論文を書き名声を博した。

卒業後直ちに京都府御用掛となり、明治18年起工式をあげ、同23年竣成通水式を行なった。この疏水工事中、長等山トンネルは2.4kmあり、当時としては国内で最長のトンネルであったばかりでなく、縦坑を掘って工事を施行した最初のものである。また、この疏水を利用して、わが国最初の水力電気事業を始めた。同年東京帝国大学工科大学教授に任ぜられ、翌24年工学博士の学位を授けられ、一躍天下に名を成した。

明治27年には、北海道庁の鉄道敷設に関する調査を依頼され、鉄道・港湾・疏水運河等を踏査した。これに基づき明治29年北海道に官設鉄道を敷設することになり、同年勅令第186号をもって北海道庁に臨時北海道鉄道敷設部が置かれ、次いで法律第93号により北海道鉄道敷設法が公布された。明治30年臨時北海道鉄道敷設部長に任ぜられたが、翌年大蔵大臣井上馨から国家財政緊縮のため鉄道建設費の予算打切りと工事中止の通知を受けたため、上京して蔵相を説得し、100万円を出させたことは有名な語り草となっている。同年北海道庁鉄道部長に任ぜられたが、欧米旅行のため、33年官を辞した。のち京都帝国大学教授に任ぜられ、大正5年同大学工科大学長となったが、同

7年退官、12年に名誉教授を授けられた。その間、京都市第2疏水工事・水道・電鉄の工事を担当したほか、明治44年には、わが国最初の水底トンネルである関門ずい道の調査に従った。

また昭和2年釧路市鶴ヶ岱の高台に鉄道記念塔を建て、北海道官設鉄道の記録や文献を銅箱に入れて埋納した。昭和33年釧路市立東中学校の敷地拡張で撤去されたが、同39年旧位置に復元建立された。なお、帝国鉄道協会評議員、土木学会長、京都商工会議所顧問、京都市名誉顧問に推された。昭和19・9・5脳出血のため京都市左京区の自宅で死去。享年82。



[工師必携] [シベリヤ鉄道] [水力] [琵琶湖疏水誌] とんねる [明治工業史] 等の著書がある。(磯 清一)

たにようけい 谷 陽脚 文化12・10・5 丹波国(京都府)郷土、谷口藤兵衛の二男に生まれ、幼名を修吉といった。

天保7年京都に出て、おじの産科医谷口達生に学び、のち開業して大いに繁じようし、九条家の典医となった。

幕末のころから無人島開拓に異常の関心を持ち、明治2年同志と無人島開墾社を結んで社長となり、翌年、東京芝愛宕町の清岸寺を本拠とし、小笠原島開拓の運動を起し、再三政府に建言書を提出した。

また朝野こぞって鉄道敷設に反対したとき、敢然としてその必要を呼号し、明治3年[悪金を駆って以て火輪車とするの議]を、次いで[火輪車建議之余論]と2回にわたって政府に建白書を提出した。当時、四面之歌の中にあつて新橋・横浜間の鉄道建設を進めていた\*伊藤博文、\*大隈重信は、百万の味方を得たごとく、これに力づけられたと後年述懐している。

晩年、小笠原諸島開拓願は、いれられず、つぎ込んだ財と多くの人から集めた出資金を使い果たし、むなしく京都へ帰り、医師法違反、売薬業規則違反等の罪に問われたが、明治18・7・15遂にろうこう(陋巷)に窮死、久しく無縁同然であった。

昭和34年、75回忌に当たり、時の日本国有鉄道総裁十河信二は、いたくこれを嘆き、遺族とともに墓碑を建立し、鉄道記念日に盛大に法要を営んだ。(藤崎四郎)

だんたいゆそうセンター 団体輸送センター 国鉄の支社の附属機関。その担当業務は、団体旅客および貸切旅客の誘致、輸送申込みの受付および引受、ならびに輸送の計画および手配を行なうことである。

貸切バス等のいちじるしい進出状況にかんがみ、団体旅客および貸切旅客の取扱業務の迅速化をはかり、観光団体専用列車の設定、小口団体専用列車など輸送方式の改善等団体輸送に対する積極的な施策を推進させるため、昭和35・10・1支社の附属機関として設置したものである。

東海道新幹線支社以外の北海道・東北・新潟・関東・中部・関西・四国・中国および西部の各支社に置かれている。

(宮坂正直)

たんどくかいほうてこ 単独開放てこ 各停車場の信号扱所において、\*開放てこによりC. T. C. 扱いを駅扱いにする必要のあるときで、故障その他のためこの取扱いをすることのできないとき、駅において単独でC. T. C. 扱ひから駅扱いとするために設けられたてこを[単独開放てこ]という。

\*列車集中制御装置の伝送関係等の故障により、開放てこに